ライフサイエンス

〔研究テーマ〕

1 西南暖地における早期水稲後作に適する晩期栽培大豆の開発

2 宮崎における在来大豆の特性評価と付加価値向上

3 ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ミヤコグサ・ダイズ



橋口　正嗣

はしぐち　まさつぐ
地域資源創成学部

准教授

研究概要

在来作物等の生物遺伝資源（バイオリソース）を用いた栽培試験や新品種の開発とその利用に関する研究を実施しています。作物をはじめとする植物や野生種を地域資源と捉えて、その特性を評価することで有用性を見出し、その中から特性が優れるものを選抜したり、あるいは良い物どうしを交雑したりしてより良い品種を作ります。これらの研究を通して得られた新しい品種や成果等を社会に還元することで地域貢献を目指しています。

1 西南暖地における早期水稲後作に適する晩期栽培大豆の開発

宮崎県は温暖な気候であることから早期水稲の主要産地です。しかしながら、早期水稲後作としての水田利用はほぼ認められず、未利用資源となっています。本研究は、宮崎を含む西南暖地における早期水稲収穫後水田の有効活用および大豆栽培の拡大を目的として、早期水稲後作に適する超晩生大豆品種と大豆の晩期栽培技術を開発するものです。

2 宮崎における在来大豆の特性評価と付加価値向上

在来作物は古くから代々受け継がれてきた作物であり、農作物の多様性を維持するための重要な植物遺伝資源です。しかしながら、近年では農業経営の多様化や農業従事者の高齢化、新規就農者の減少に伴う農家の減少、さらには食文化の大きな変化が影響し、古来より伝わる在来作物が失われる危険性が高まっています。地域古来の在来作物を守り、作物の多様性を保つためには、地域の在来作物に関する情報を集め、その種子を保存することが重要です。本研究は、宮崎の在来大豆に焦点を当てその特徴を調査し付加価値を高めることで、地域での利用拡大と特産化を進めることを目的とするものです。

3 ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ミヤコグサ・ダイズ

ミヤコグサは、日本に自生する野生のマメ科植物で、世代期間が短く（約3ヶ月）、ゲノム情報が解読されていることから、モデルマメ科植物として基礎研究分野で広く利用されています。一方、ダイズは種子にタンパク質や脂質の他、イソフラボンやサポニンなどの機能性成分も多く含むことから、世界的にも食用や飼料の他、搾油用の工芸作物として広く利用されています。本研究はミヤコグサとダイズの遺伝資源を収集･保存し、研究者に配布しています。

キーワード

在来作物
植物遺伝資源
バイオリソース
品種開発
大豆

特許情報・共同研究・応用分野など

植物品種：Zoysia Willd（しば属）出願品種の名称：ひなた（名称変更）（出願時名称：あおい）
29903
植物品種：Zoysia Willd（しば属）出願品種の名称：めばえ
29904
「高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム」に関する研究調査
みやだいずの生産実証に向けた課題解決と提案
2022年05月～2023年02月
宮崎市地域貢献学術研究助成金
マメ科植物研究を支えるミヤコグサ・ダイズリソースの高度化と利用拡大
2022年04月～2027年03月

ホームページ

LegumeBase
https://legumebase.nbrp.jp/legumebase/

技術相談に応じられる関連分野

メッセージ

環境